



通信

HP 学校だより
R7. 1. 8
NO. 35
文責 伊藤美佳



3学期スタートに思うこと

美しいご来光の中、2025年がスタートしました。穏やかな晴天に恵まれた冬休みも終わり、3学期のスタートです。

3学期は、現在の学年のまとめをするとともに、次の学年の準備をする学期です。子どもたちが、自分の成長を自覚し、次年度への意欲や自分なりの目標をもてるように、職員一同で支援していきたいです。

6年生は、卒業という一番大きな節目を迎えます。幸田町内6つの小学校の中で唯一、2校の中学校に別れて進学する豊坂っ子は、この3学期が6年間ともに生活してきた仲間と過ごす最後の時間となります。6年生にとっても、下級生にとっても今まで以上にかかわりを持ち、思い出となる時間を過ごしてほしいです。また、卒業に向けての活動の中で、最高学年としての姿を見せてくれることで、下級生が「あこがれ」る言動を期待したいです。

5年生は、最上級生として自分たちは「どうしていくのか」考える大切な時間となります。6年生がいてくれる3学期だからこそ、自分たちの3ヶ月先の姿を想像し、近づくための努力ができると思います。最高学年0学期をどう過ごすのか、とても楽しみにしています。

1～4年生は、今までより少しだけ、1つ上の学年になることを自覚してくれればと思います。次の学年への期待を持つことはとても大切です。その期待が、ずっと続くように、今すべきことを真摯に取り組める豊坂っ子でいてほしいです。

まだまだ、インフルエンザ等の感染症が猛威を振るっています。子どもたちが元気に活動し、学べる環境を整えるために、本年も保護者の皆様、地域の方々の理解とご協力をよろしくお願いします。

巳年の今年は

始業式に子どもたちに話したお話の一部を紹介します。

「巳年」の今年は、へびの置物や飾りがたくさんあります。へびは苦手という人も多いと思いますが、このようなかわいい置物になることに驚きました。「苦手なものも、見方を変えると苦手でなくなったり、面白くなったりする」ということを実感しました。

また、へびが口を大きくあけている様子を「大笑い」としているところがアイデアだなと思いました。「特徴をいかすことで、より良いものになり、生きる力となる」ことも、この置物から学びました。

豊坂っ子には、「今年の干支にちなんで、苦手なこともダメだと決めつけず、違う見方をしてみたり、自分の特徴を生かして得意を伸ばしてチャレンジしたりして、実り多き一年にしてほしい」と伝えました。

